

## 1. 製品及び会社情報

製品の名称	:AS製品(ASゴム付きシート)
SDS 整理番号	:ASJP-09-01
供給者の会社名称	:旭化成アドバンス株式会社
住所	:〒105-0004 東京都港区新橋六丁目 17 番 21 号 住友不動産御成門駅前ビル
担当部門	:樹脂化学品本部 化学品事業部 機能製品営業部
電話番号	:03-5404-5045
FAX 番号	:03-5404-5049
緊急連絡先	:086-455-6621 旭化成ASテック株式会社 (平日昼間のみ)
推奨用途及び使用上の制限	:主に機械部品(摺動材、耐摩耗、付着防止)として使用。 使用上の制限は16項に記載。

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類 :分類基準に該当しない。

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル :なし

注意喚起語 :なし

危険有害性情報 :なし

注意書き:

### 【安全対策】

- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・作業場では、火気のみだりに使用する事を避け、整理整頓に努める。
- ・作業場に粉末状の樹脂が存在する時は、粉塵爆発の危険性があるので、これらの滞留を避ける。

### 【応急処置】

- ・眼に入った場合、清浄な水で洗浄した後、眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗浄する。眼をこすってはならない。
- ・飲み込んだ場合、出来るだけ吐き出させ、異常を感じるようであれば医師の手当てを受ける。

### 【保管】

- ・「7. 取扱い及び保管上の注意」を参照。

### 【廃棄】

- ・「13. 廃棄上の注意」を参照。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

### 【有害性】

- ・皮膚および眼に物理的刺激性あり。
- ・通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さい。
- ・可燃性であり、着火源があれば燃える。

### 【環境への影響】

- ・一般環境において長時間分解しないため、環境に影響する可能性がある。

### 【特定の危険有害性】

- ・燃焼など高温で有害ガスが発生する可能性があり、眼、呼吸器に刺激性がある。

## 安全データシート

2/7

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :混合物(ポリエチレン成形品と合成ゴムシートの貼り合せ品)


化学名又は一般名 :ポリエチレン、スチレンブタジエンゴム

成分及び濃度 :

&lt;ポリエチレン成形品&gt;

化学名	化学式	CAS 番号	濃度 (重量%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
ポリエチレン	$-(CH_2-CH_2)_n-$	9002-88-4	99 以上	(6)-1
その他の添加剤 (非公開)	非公開	記載あり (非公開)	1 未満	登録あり (非公開)

&lt;合成ゴムシート&gt;

化学名	化学式	CAS 番号	濃度 (重量%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
スチレンブタジエンゴム	$[\text{CH}_2-\text{CH}=\text{CH}-\text{CH}_2]_m-\text{CH}(\text{C}_6\text{H}_5)-\text{CH}_2]_n$ 	9003-55-8	80~90	(6)-134
酸化チタン(白ゴム)	TiO <sub>2</sub>	13463-67-7	10~20	(1)-558
カーボンブラック(黒ゴム)	C	1333-86-4	10~20	元素

## 4. 応急措置

吸入した場合	:加工時発生する切削微粉末を吸込んだ場合、直ちに空気の清浄な場所に移し、医師の診断を受ける。 : 燃焼時製品より発生するガスをひどく吸込んだときは、新鮮な空気のある場所に移る。 : 咳・呼吸困難等の症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	:水と石鹼で付着した部分をよく洗い、不快感が残る場合は医師の診断を受ける。
眼に入った場合	:切削屑や欠片等の場合、清浄な水で洗浄した後、眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗浄する。眼をこすってはならない。
飲み込んだ場合	:出来るだけ吐き出させ、異常を感じるようであれば医師の手当てを受ける。
応急措置をする者の保護	:該当しない

## 5. 火災時の措置

消火剤	:水、泡消火薬剤(エアフォーム)、粉末消火薬剤、二酸化炭素等。
使ってはならない消火剤	:特になし

火災時の特有の危険有害性 : 燃焼ガスには一酸化炭素等が含まれる。不完全燃焼(燻焼)の場合にはこれに加え、有機酸、ホルムアルデヒド、アクロレイン等も発生する。

特有の消火方法 : 消火作業は、可能な限り風上から行う。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。  
火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。  
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。  
初期消火には水、粉末消火薬剤を用いる。大規模火災の場合には、泡消火薬剤(エアーフォーム)等を用いる。  
容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。移動できない時は、容器に注水して冷却する。

消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 人体に対する危険有害性は小さいと考えられる。

環境に対する注意事項

: 流出した製品が河川に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。  
一般環境において長時間分解しないため、漏出時には回収すること。

封じ込め及び浄化の方法・機材

: 漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。

二次災害の防止策 : 火花を発生しない安全な用具を使用する。

付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火の準備をする。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 : 本製品は大変滑り易いので、滑り止めを講じた手袋にて取り扱うこと。又、重量のある製品については腰痛対策を講じること。

作業場では、火気をみだりに使用する事を避け、整理整頓に努め、静電気による誇り等の付着防止のための措置をとることが望ましい。

安全取扱い注意事項 : 加工作業は揮発分、臭気及び粉塵が発生する可能性があるため、必要に応じて局所排気装置等を使用する。

接触回避 : 特になし

衛生対策 : 休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。  
指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。

### 保管

安全な保管条件 : 本製品は大変滑り易い特性を持っているため、保管の際、荷崩れ等に注意が必要。

直射日光、水濡れ、急激な温度変化等を避ける。

貯蔵場所では、みだりに火気を使用しない。

原則、屋内保管とする。

安全な容器包装材料 : 紙袋、紙箱、ダンボール箱など

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 該当しない  
許容濃度 : 該当しない

設備対策 : 本製品の切削加工を行う際は切削屑の飛散防止のため、集塵機等の設備がある方が望ましい。

研磨など粉塵の発生する作業を行う場合には、静電気による粉塵爆発の危険性があるので、静電気除去装置を設置する。取扱い場所近くに洗身のための設備を設けることが望ましい。

### 保護具

呼吸器の保護具 : 切削加工等により欠片や微粉が発生する場合は防塵マスク  
手の保護具 : 保護手袋  
眼の保護具 : 保護眼鏡  
皮膚及び身体の保護具 : 保護服(長袖作業衣)、保護長靴等

## 9. 物理的及び化学的性質

### <ポリエチレン成形品>

#### 外観

物理的状態 : 固体(常温)  
形状 : シート状  
色 : 白色

臭い : ポリエチレン臭

融点・凝固点 : 136℃

引火点 : 341-357 °C 【測定方法:ASTM D 1929】

【引用文献 1】

粉塵爆発限界 : 粉塵は爆発性混合気を生成する場合がある。

【引用文献 2】

下限 : 15 g/m<sup>3</sup> (平均粒径; 24 µm)  
30 g/m<sup>3</sup> (平均粒径; 105 µm)

上限 : データなし

密度 : 約 940kg/m<sup>3</sup> (23℃)

#### 溶解度

水 : 不溶

その他の溶媒 : 多くの溶媒に溶けにくい、芳香族炭化水素には比較的溶ける。

自然発火温度 : 400 °C(平均粒径; 24 µm)

【引用文献 2】

440 °C(平均粒径; 105 µm)

分解温度 : 335-450 °C

【引用文献 1】

### <ゴムシート>

#### 外観

物理的状態 : 固体(常温)  
形状 : シート状  
色 : 白・黒色(2種類)

臭い : ゴム臭

融点・凝固点 : -

引火点 : -

粉塵爆発限界 : 知見なし

---

密度	: -
自然発火温度	: -
分解温度	: -

## 10. 安定性及び反応性

安定性	: 一般的な貯蔵、取扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	: 知見なし
避けるべき条件	: 直射日光、水濡れ、高温、高湿、急激な温度変化、火気、熱源
混触危険物質	: 知見なし
危険有害な分解生成物	: <ポリエチレン成形品> 不完全燃焼(燻焼)の場合には一酸化炭素の他、有機酸、ホルムアルデヒド、アクロレイン等も発生する。 <ゴムシート> 知見なし

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

ポリエチレン	: ポリエチレンの生体に対する影響をみると、ラットの経口投与による LD <sub>50</sub> 算定が試みられたが、7.95 g/kg 以上の投与は実験操作上困難であり、また投与量 7.95 g/kg では、なんら毒性の兆候は見られず、体重増加も正常であり、組織病理学的検査でも異常は認められない。 【引用文献 3】
ゴム付きシート	

高分子化合物で生理的に不活性であり、人体への特別な急性作用はない。

皮膚腐食性及び刺激性	: 皮膚に対し、物理的な刺激がある。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	: 眼に対し、物理的な刺激がある。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	
ポリエチレン	: IARC の発がん性区分でグループ 3(ヒトに対する発がん性については分類できない)に分類されている。 【引用文献 4】
ゴムシート	: 有用な情報なし。
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: データなし

---

## 12. 環境影響情報

---

## 安全データシート

6/7

---

生態毒性	
魚類	: データなし
甲殻類	: データなし
藻類	: データなし
残留性・分解性	: 一般環境において長時間分解しない。
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: モントリオール議定書の付属書には含まれない
環境影響	: 一般環境下に廃棄することは、環境汚染を招く等、生態系に影響を及ぼす可能性がある。

**13. 廃棄上の注意**

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

**14. 輸送上の注意**

---

国際規制	
国連番号	: 危険物に該当しない
海洋汚染物質	: 該当しない
MARPOL73/78 附属書 II および IBC コードによりばら積み輸送海洋汚染物質	: 該当しない
国内規制	
海上規制情報	: 危険物に該当しない
航空規制情報	: 危険物に該当しない
陸上規制情報	: 消防法における指定可燃物に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
輸送の特定の安全対策及び条件	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 転倒、落下、破損のないように積み込み、荷ぐずれ防止を確実に行う。
緊急時応急措置指針番号	: 171

**15. 適用法令**

---

消防法	: 指定可燃物(合成樹脂類(その他のもの)) <3,000 kg 以上>
労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条、施行令第18条別表第9) 酸化チタン(IV)(政令番号:191) カーボンブラック(政令番号:130) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 酸化チタン(IV)(政令番号:191)

---



---

カーボンブラック(政令番号:130)

---

#### 16. その他の情報

1. 弊社は、医療機器・医療用途の中で、本製品の下記用途への使用は固くお断り致します。
  - \* 人体中に埋め込まれて使用される用途(インプラント用途)
  - \* 30日以上連続して、人体(含む血液・体液等)に接触する用途
2. 上記以外の用途については
  - ・法規制、規格・基準、使用制限等への適合性
  - ・用途に応じた要求特性に対する適合性、安全性等を貴社の責任でご検討戴き、使用可否をお決め下さい。
3. 本安全データシート(SDS)中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。貴社が特殊な取扱いをされる場合は、用途や使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。
4. 本製品と併せて使用される配合剤、添加剤等がある場合には、それらの安全性は貴社にて調査をして下さい。
5. 本製品の製品安全に関する情報が必要な場合には、機能製品営業部にお問合せ下さい。  
(TEL:03-5404-5045、FAX:03-5404-5049)
6. 本 SDS は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成されており、今後新しい知見により改訂されることがあります。
7. 当社は本 SDS の記載内容につき十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。

#### 引用文献

- 1) Flammability Handbook for Plastics : Carlos J. Hilado (Fifth Edition)
- 2) 産業安全研究所安全資料  
(SAFETY DOCUMENT OF RESEARCH INSTITUTE OF INDUSTRIAL SAFETY RIIS-SD-90-1, 1990)  
(労働省産業安全研究所)
- 3) プラスチックス, Vol.26, No.3, P.20
- 4) Agents Classified by the IARC Monographs, Volumes 1-121 Last update: 18 April 2018